

# ワンダグリンダプロジェクトの取組とふれあいセンターの活動

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

自然再生指導官 朝倉 基博・國井 進

## 1. 課題を取り上げた背景

釧路湿原では、2003年（平成15年）11月に自然再生推進法に基づき「釧路湿原自然再生協議会」（写真1）が設立され、同法に基づく「釧路湿原自然再生全体構想」、「地区ごとの自然再生事業実施計画」により、ラムサール条約に登録された1980年頃の湿原の環境を目標として、具体的な事業が進められています（図1）。



写真1 釧路湿原自然再生協議会

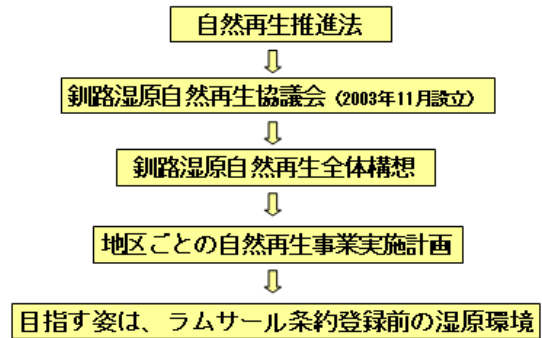


図1 これまでの流れ

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンターでは、釧路湿原自然再生協議会に所属し、釧路湿原北側に位置するシラルト口沼とその上流域の森林の水土保全機能を高めるため、水土保全機能の評価の低いトドマツ立ち枯れ箇所（写真2）250ヘクタール余りを対象として雷別地区自然再生事業を行っています。



写真2 雷別地区自然再生事業地

## 2. ワンダグリンダプロジェクト

釧路湿原自然再生協議会には図2の6つの小委員会が置かれ、地区ごとの自然再生事業実施計画の詳細な協議が行われています。また、再生普及小委員会には、再生普及行動計画ワーキンググループが置かれ、自然再生推進法の趣旨と全体構想を踏まえ、釧路湿原自然再生普及行動計画（以下「行動計画」という。）が作成されています。

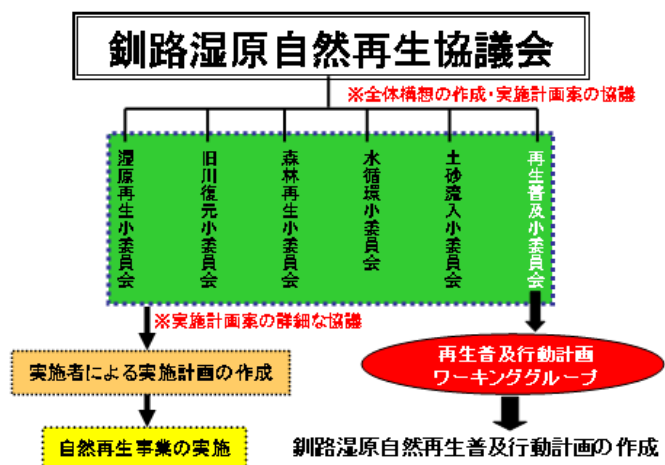


図2 協議会の構成

この行動計画は、釧路湿原の自然再生を地域や市民に発信・普及するとともに、地域や市民の参加・支援のもとに自然再生を効果的に進め、自然再生のための具体的な行動をする人や地域の活動を応援するための計画です。

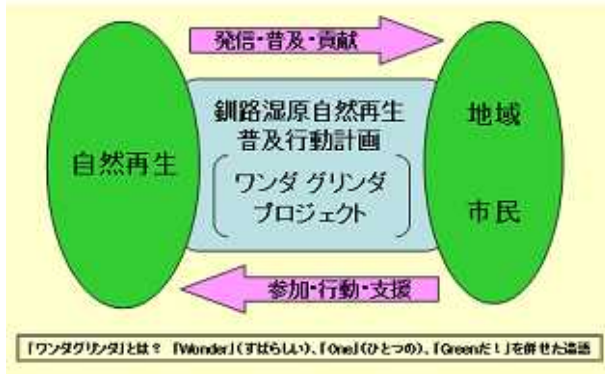


図3 再生普及行動計画とワンダグリーンプロジェクト

「ワンダグリーンプロジェクト」とは、行動計画の具体的な取組を表す言葉として、2006年に公募・決定されました。行動計画は、「ワンダグリーンプロジェクト」の実施を通して、「できる者」が「できること」から取り組むことを原則に、自然再生と地域・市民をつなぎ、ネットワークを広げるためのプロジェクトです(図3)。

ワンダグリーンプロジェクトすなわち再生普及行動計画では、釧路湿原で行われている自然再生をもっと多くの人に知ってもらいたいと図4で示す10の取組目標を掲げています。

ワンダグリーンプロジェクト(再生普及行動計画)

釧路湿原で行われている自然再生をもっと多くの人に知ってもらいたいと10の取組を掲げています

1. みんなの湿原への関心を高める。
2. 湿原と人との関わりの歴史と今を知る。
3. 自然再生のしくみや動きを広める。
4. 自然再生について情報公開と合意形成を進める。
5. 自然再生に地域・市民の参加を促す。
6. 自然再生への幅広い支援・協力を求める。
7. 湿原と継続的に関わる学びの機会をつくる。
8. 国立公園の新しい利用形態を創出する。
9. 湿原を訪れる人へのサービスを改善する。
10. 人・施設・地域のネットワークをつくる。

図4 ワンダグリーンプロジェクトの10の目標

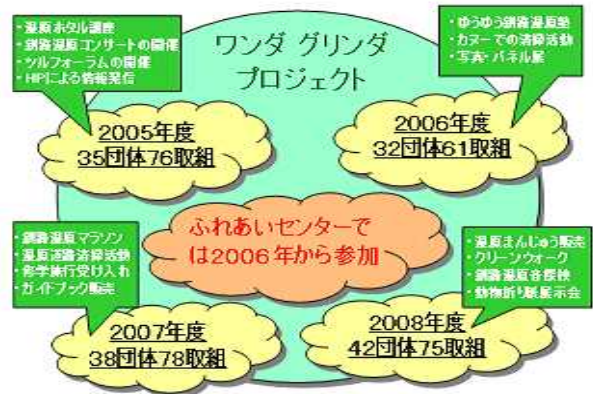


図5 ワンダグリーンプロジェクトの具体的な取組

ワンダグリーンプロジェクトでは、2005年6月から具体的な取組の公募を始めました。2005年度には、「湿原ホテル講座」、「湿原コンサートの開催」、「ツルフォーラムの開催」など、35団体76の取組が登録・実施されました。2006年度には、「ゆうゆう釧路湿原塾」、「カヌーでの清掃活動」など、32団体61の取組が登録・実施されました。2007年度には、「釧路湿原マラソン」、「湿原道路清掃活動」、「修学旅行の受け入れ」など、38団体78の取組が登録・実施されました。2008年度には、「湿原まんじゅうの販売」、「釧路湿原“音”探検」、「動物折り紙展示会」など、42団体75の取組が登録・実施されました。

釧路湿原自然再生協議会では、毎年、ワンダグリーンプロジェクトの全取組を、1冊の冊子(写真3)に取りまとめ、広く配布しています。この冊子を見ると、釧路湿原に関わりのある様々な取組が、いろいろな方々の参加によって、いろいろな場所で、いろいろな形で行われていることが分かります。



写真3 ワンダグリーンプロジェクト 報告書



### 3. ワンダグリンダプロジェクトとふれあいセンターの活動

当センターでは、自然再生事業実施箇所周辺の森林、河川、湿地などを活用して、地域住民に森林について考え・学んでもらう機会の提供に努めながら、森林環境教育と市民参加を推進してきています。ワンダグリンダプロジェクトには2006年度から取組を登録し、活動しています。

#### (1) 自然再生学習会

2006年から雷別地区自然再生事業地での自然再生学習会をワンダグリンダプロジェクトに登録し実施しています。自然再生学習会は、春・秋の2回、広く市民の参加を募って開催し、国有林が行う自然再生事業への一般市民の参加を促す取組です。

自然再生学習会では、自然再生事業の概要や森林再生への取組内容の紹介、自然再生事業地に自生する樹木(ミズナラ・ハルニレ・ヤチダモなど)の植栽(写真4)、種の採集や種まき、幼苗のコンテナ移植、シカ食害対策ヘキサチューブの設置(写真5)、森林散策を行い、樹木の特徴や森林の働き・森林土壌などの学習、参加者へ継続的参加の呼びかけ、などを行っています。



写真4 郷土樹種の植栽



写真5 ヘキサチューブの取付け

#### (2) 雷別ドングリ倶楽部

2007年から、雷別地区の自然再生活動に多くの人に継続して参加してもらうため、雷別ドングリ倶楽部を設立し、この取組をワンダグリンダプロジェクトに登録しました。

雷別ドングリ倶楽部には現在35名の会員が加入し、自然再生事業地の樹木(ミズナラ・ハルニレ・ヤチダモなど)からタネの採集(写真6)、採取したタネの種まき、発芽苗をコンテナに移植(写真7)するなどの苗木育成、事業地での地植えや苗木の植栽、樹木の成長調査、などの活動を年間5~6回行っています。



写真6 ヤチダモの種子採集



写真7 黒マルチコンテナへの苗木移植

### (3) お庭で苗木育成

2007年から「お庭で苗木育成」の取組を開始し、ワンダグリンダプロジェクトに登録しました。この取組は、雷別の事業地まで行けない方でも、自宅で苗木作りのお手伝いができる取組です。24本植えのマルチキャビティコンテナ苗(写真8)を3年間ほど自宅で預かって育ててもらい、大きくなった苗木は自然再生事業地に植栽する苗木(写真9)になります。



写真8 マルチキャビティコンテナに移植された川口の幼苗



写真9 現地への植栽

### (4) 市民参加の促進

自然再生学習会、雷別ドングリ倶楽部、お庭で苗木育成などを行う上でポイントとなるのは、いずれも市民の参加がなくては成り立たないことです。一人でも多くの方々に釧路湿原の自然再生につながる活動に参加していただくため、ワンダグリンダプロジェクトへの参加とともに、新聞などでの公募、地元ラジオでの公募放送(写真10)、協議会のホームページ掲載などに努めています。



写真10 地元ラジオ局での放送

### (5) ワンダグリンダプロジェクト10の目標とふれあいセンターの活動

(1)~(4)の活動を「図4 ワンダグリンダプロジェクトの10の目標」に当てはめると、「1. みんなの湿原への関心を高める」「3. 自然再生のしくみや動きを広める」「5. 自然再生に地域・市民の参加を促す」「6. 自然再生への幅広い支援・協力を求める」「7. 湿原と継続的に関わる学びの機会をつくる」「10. 人・施設・地域のネットワークをつくる」などに該当しています。これらの目標を達成できるように、今後も様々なメニューを取り入れるなど工夫を重ねていきたいと考えています。

### 4. まとめ(今後に向けて)

2005年度から始まった行動計画は2009年度で第1期が終了し、2010年度からは第2期に入ります。第2期行動計画では、湿原に関心を持つ人たちをさらに増やしていくとともに、「関心」、「知識」から、「参加」、「行動」につなげ、人々と湿原の関わり深めていくことを目指しています。このため、「釧路湿原を知る・楽しむ・学ぶ」、「自然再生に参加する・行動する」、そして「地域と関わり・人をつなぐ」の3つを柱として、これらの趣旨に賛同する人や団体による自発的な活動・協力に

よって、第2期の「ワンダグリンダプロジェクト」が構成（図6）されます。当センターにおいても、「雷別地区自然再生事業」、「雷別ドングリ倶楽部」、「お庭で苗木育成」等の取組を通し、一人でも多くの方々に釧路湿原の自然再生につながる活動に関心・興味を持ってもらい、参加・行動してもらえるように、自然再生の普及に向けた取組を継続していきたいと考えています。

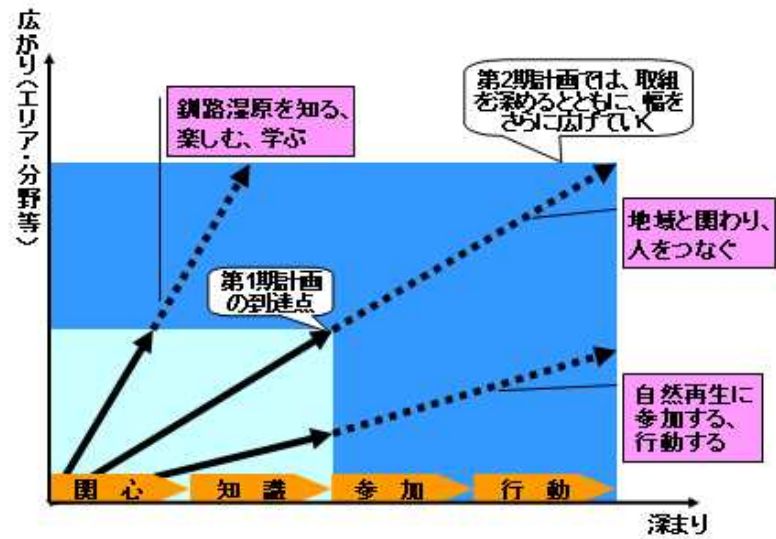


図6 第2期のワンダグリンダプロジェクトの構成